

# 東京都公文書館だより

## Tokyo Metropolitan Archives News

第30号

【編集・発行】

東京都公文書館

平成 28 年度登録第 9 号

平成 29 年 3 月発行

【印刷】(株)まこと印刷

### 《目次》

福井県・東京都公文書館共催

東京都文化財ウィーク2016参加企画展「東京府知事由利公正とその時代」…………… 1

東京都公文書館・公益財団法人特別区協議会共催

パネル展「東京・江戸の橋 ～水の都をつなぎ、水辺の文化をつむぐ」…………… 4

SNS 2016年人気ランキング1位をご紹介します！…………… 6

利用案内…………… 8

福井県・東京都公文書館共催

東京都文化財ウィーク2016参加企画展 「東京府知事由利公正とその時代」

福井県・東京都公文書館共催  
東京文化財ウィーク2016参加企画展

# 東京府知事 由利公正とその時代

平成28年10月21日[金] - 11月18日[金]

東京都公文書館 2階閲覧室内展示スペース

入場無料

休館日●土日祝日、11月16日 開館時間●9:00～17:00(入場16:30まで)

東京都公文書館  
〒158-0094 東京都世田谷区玉川1-20-1 TEL 03-3707-2604  
<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/>

【交通機関】  
①東急田園都市線・東急大井町線「二子玉川」駅東口下車 徒歩約15分  
②東急大井町線「上野毛」駅下車 徒歩約10分  
③二子玉川駅・上野毛駅 東急バス「玉川高校前」下車(黒02系統)  
\*一部利用料はご利用していただきません。公共交通機関をご利用ください。  
\*東京都公文書館は旧幕末二子玉川集会所の跡地を利用しています。  
\*二子玉川駅が最寄り駅です。

ポスター

東京都公文書館では、毎年、東京都教育委員会  
が主催する東京文化財ウィークの期間にあわせて、  
国指定重要文化財である東京府・東京市の公文書  
を紹介する企画展を開催してきました。今年度は、

平成 28 年 (2016) 10 月 21 日 (金) から 11 月 18  
日 (金) にかけて、福井県との共催展示「由利公  
正とその時代」を、当館展示スペースにおいて開  
催しました。展示は、I 維新政府での活躍、II 東

京府知事由利公正、Ⅲ 東京府文書にみる由利公正の3部で構成されています。以下、構成に沿って展示の概要をご紹介します。

なお、日付は和暦を優先し、明治5年12月の改暦以前は旧暦を用いました。

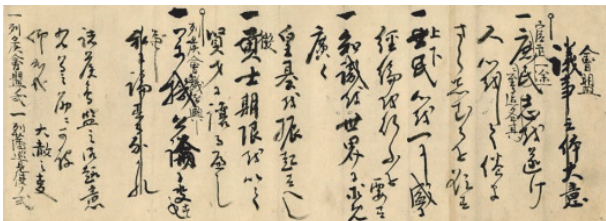
### ■維新政府での活躍

I部では、由利が維新政府へ出仕することとなった経緯と、出仕後の活躍を紹介しました。

下級武士であった由利を藩政の中心へと押し上げたのは、師である横井小楠から授かった財政論でした。やがてそれは、坂本龍馬をして、金銀物産の事を論じるには「三八（由利）を置かば他二人なかるべし」と言わしめます。

龍馬の熱心な推挙により、慶応3年（1867）12月18日、由利は新政府に出仕し、ほどなく財政担当を命ぜられました。

発足したばかりの新政府にとって、財政基盤の確立は急務であり、翌年1月、会計基立金（御用金）300万両の調達を決定します。この際由利は、まず天下に大義を明らかにして方針を示すべきであると考え、5か条からなる「議事之体大意」を起草します。この「議事之体大意」は、「五箇条の御誓文」の原案となりました。



「議事之体大意」（福井県立図書館所蔵）

その後由利は、持論であった金札（太政官札）の発行を断行しますが、新政府への信用が十分でなかったため、広く流通せず、また額面通りにも通用しませんでした。さらには、太政官札を手にした外国商人からも不満が高まり外交問題にまで発展し、由利は失意のうちに政府を去ります。龍馬の遺志を継ぎ、小楠の教えを实践しようとした由利の挑戦は、わずか1年余りで終わりをづけました。

### ■東京府知事由利公正

Ⅱ部では、由利府知事の功績を中心に紹介しました。

由利の府知事在任期間は、約1年間と極めて短いものでしたが、その間にいくつかの重要な政策を打ち出しています。特筆すべきは、明治5年（1872）2月の大火により焦土と化した銀座市街の復興政策です。大火後由利は、府下一円を不燃都市とすることを企図し、まず焼失した銀座で煉瓦街建築に取り組みます。しかし、その直後に突然の洋行を命ぜられます。

明治5年5月15日、由利は岩倉使節団に随行し横浜を出航しました。現職の府知事である由利が随員に加えられた背景には、銀座煉瓦街建設計画をめぐる大蔵大輔井上馨との対立があったと推測されます。銀座を煉瓦造りの不燃都市として再建しようという方針では一致していましたが、その方法においてはことごとく対立していたのです。

折しも、岩倉使節団に副使として参加していた大蔵卿大久保利通が一時帰国していたため、井上は、建設計画が進展しない現状を、由利を洋行さ



展示風景



展示風景（当館所蔵資料等）

せることによって打開しようと、上司である大久保に諮り、その結果、由利が大久保に随行することとなったのでしょう\*。

洋行した由利は、帰国後の府政に活かそうと訪問各国で積極的に都市行政を視察しますが、その体験を府政に反映させることはできませんでした。なぜなら、出発から約2カ月後の7月19日、府知事免官が発令されたからです。

実は、由利の出発からわずか10日後には、大久保一翁が府知事に就任し、由利の免官が発令されるまでの約2か月間、府知事が2人存在していました。こうした事態は、これ以前、そしてこれ以後にも例がありません。そのうえ、免官から1カ月以上経過した9月2日まで、東京府職員がその事実を知らず、府民にも布告されていなかったことがわかりました。由利の免官が、いかに異例であったかを物語っています。

### ■東京府文書にみる由利公正

Ⅲ部では、東京府・東京市文書の中から由利に關係する史料6点を選び紹介しました。

これらの史料によって由利が、①自身の名「公正」を、「こうせい」ではなく「きみまさ」と名乗っていたこと、②明治5年2月の大火で全焼した私邸の再建に際し、率先して煉瓦建築としていた

こと、③架橋への献金や出資をしていたこと、④明治7年から11年にかけて、群馬県甘楽郡中小坂村（現下仁田町中小坂）の鉄山を購入し、採掘事業を試み、失敗したこと、⑤明治9年7月から10年間、板橋で牧場を経営していたこと、⑥明治22年(1889)11月の赤坂区会議員選挙に当選し、翌月23日の赤坂区会で圧倒的多数をもって議長に選出されたこと、などがわかります。



展示風景（当館所蔵資料等）



展示風景（福井県からの配布資料）



第4代東京府知事 由利公正肖像（当館蔵）

以上、簡単に概略を記しましたが、展示の詳細な報告については、『東京都公文書館調査研究年報（WEB版）』第3号に掲載しており、PDFデータを東京都公文書館のHPにて公開しています。ぜひ、ご一読ください。

[http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/0609r\\_report.htm](http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/0609r_report.htm)

※ 藤森照信『明治の東京計画』（岩波書店 1982年）

東京都公文書館・公益財団法人特別区協議会共催

パネル展「江戸・東京の橋 ～ 水の都をつなぎ、水辺の文化をつむぐ」

**開催の趣旨**

平成28年12月2日から12月27日まで、東京都千代田区飯田橋の東京区政会館エントランスホールにおいて、標記の共催パネル展が開催されました。はじめに、展示冒頭の「ごあいさつ」を引用し、本展示の趣旨説明に替えたいと思います。

江戸・東京という巨大都市は、隅田川等の自然河川の他、江戸城内堀・外堀や、縦横に張り巡らされた運河に囲まれ、水の都の様相を示してきました。そこに架けられた多くの橋々は、人と物の交通や流通を支える貴重なインフラであるとともに、豊かな都市景観を形作り、さらに水辺の文化を育む貴重な空間をも生み出してきたのです。

このパネル展では、江戸時代から明治・大正期、そして関東大震災後の復興橋梁に至る江戸・東京の橋を取り上げ、それぞれの時代の技術や意匠、名所としての橋が生み出した文化空間のあり方をたどっていきます。

戦後、多くの河川や運河がかつての機能を後退させ、高度な土木技術とすぐれたデザインを誇っていた橋々も画一的なものへと流れていきました。しかし、近年改めて東京の都市構造の核をなしている水の都の歴史性を再発見し、歴史的景観の整備、水辺の文化の再生と地域の活性化に活かそうとするさまざまな取り組みが開始されています。

このパネル展を通して「橋のある風景」の意義を考え直すきっかけとさせていただければ幸いです。

平成28年12月

公益財団法人 特別区協議会

東京都公文書館

**■ 展示構成**

会場を区分し、次の5つのコーナーで展示を構成しました。

- I 江戸の橋 ～ そのすがたとかたち
- II 江戸から東京へ ～ 名所としての橋々
- III 明治・大正、東京の橋の新展開
- IV 関東大震災と復興橋梁
- V 幻の万博と勝鬨橋

Iでは、江戸時代初期の城下町建設の一環として整備された江戸の橋を、「江戸図屏風」(国立歴史民俗博物館蔵)や寛永九年「武州豊島郡江戸庄図」等で紹介した上で、江戸期の長大橋の構造と建造方法がわかる史料を紹介しました(図1)。

IIではまず、「江戸名所図会」に収録された江戸名所としての橋の中から、目黒太鼓橋や御茶の水の神田上水懸樋等ユニークなものをパネル化。さらに明治期に入って錦絵等に描かれた新名所としての橋梁の中から両国橋、吾妻橋、皇居の橋を取り上げました(図2)。

ところで、近代における首都東京の橋梁の変化をたどると次のような変遷を見て取ることができます。(カッコ内は竣工年)

① 九州から技術者集団を招いて作られた明治初年の石造アーチ橋

万世橋(1873) 蓬莱橋(1874)等

② 隅田川に架けられた長大橋の老朽化に対応するため、お雇い外国人の設計で作られた洋式木橋

永代橋(1875) 吾妻橋(1876)等

③ 弾正橋(1878)を先駆けとして、明治後半期に隅田川に架けられていった鉄橋

厩橋(1893) 両国橋(1904)等

④ ③と重複するが、東京市区改正期以降に整備された、都市景観に配慮した装飾的なデザインの橋梁(図3)

日本橋(1911) 四谷見附橋(1913)

八つ山橋(1914)等

⑤ 関東大震災後の復興事業の一環として多彩な技術と意匠を駆使して建造された復興橋梁

永代橋(1926) 清洲橋(1928)(図4)等

コーナーIII・IVでは以上のような流れをふまえて、東京都建設局が日本土木学会と同時開催した展示用に作成済みだったパネルを借用して構成しました。

最後のコーナーVでは1940年に完成したユニークな跳開橋、勝鬨橋を紹介しました。この橋は、当時国家的イベントとして計画されていた万国博覧会のメインゲートとしても予定されており、最新技術の粋を集めて建造されたものでした(図5)。

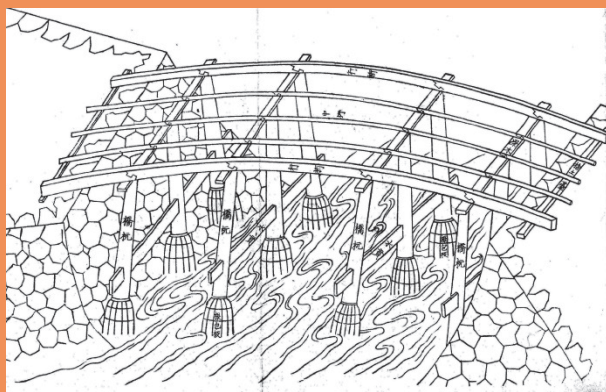


図1 堤防橋梁組立絵図  
(国立国会図書館ウェブサイトから転載)



図2 東京名所従吾妻橋水雷火遠見之図 (当館蔵)



図3 四谷見附橋  
(「建築写真類聚」第2期第5 国立国会図書館ウェブサイトから転載)



Kiyosu Bridge (Greater Tokyo) 安齋の橋頭清洲ゲッセ (京大蔵)

図4 モダン清洲橋の麗姿 (当館蔵)



図5 勝鬨橋開橋時の船舶通過  
(中央区立京橋図書館蔵)

## ■「橋」の展示を終えて

今回のパネル展では、土木技術の粋を集めた橋梁に注目し、そこから江戸・東京の特質に光を当ててみました。また、関連講座には、江戸社会史研究の第一人者である竹内誠氏（江戸東京博物館名誉館長）と、東京都建設局において橋梁の維持管理、建設の第一線で活躍されている、橋梁史研究者・紅林章央氏にご登壇いただき、いずれの講演も大好評を博しました。

講演会場には歴史愛好家の方に交じって、都内の自治体で橋梁管理等に当たる職員の方々も参加されていました。テーマ設定や展示の切り口次第では、これまで公文書館とは縁遠かった方にもご参加いただける、そんなヒントをもらえる場ともなりました。

## SNS 2016年人気ランキング1位をご紹介します！

当館では、まだまだ知られていない面白く興味深い資料を多く所蔵しています。ただ、公文書館というと、なんだか敷居が高いと感じている方も少なくないかと思います。そこで、より身近に感じ、知っていただけるよう、SNS（Facebook／Twitter）を活用してご紹介しています。

ここでは、平成28年（2016）に掲載した資料のうち、特に好評だった記事を2つご紹介します。

## 【Facebook「錦絵に描かれた新富座」】

記事は毎回、日々の業務のなかで見つけたものや、掲載日にちなんだ資料を探し出してきてネタにします。この記事が掲載された11月21日は「歌舞伎座開業記念日」であり、明治22年（1889）の同日、現在の所在地である東京市京橋区木挽町三丁目（現・中央区銀座四丁目）に歌舞伎座が開業したことを記念して制定されました。

そこで、当館所蔵の資料のなかから歌舞伎関係のものを探したところ、「東京開化三十六景 新富町森田座」と題する錦絵を見つけたのです。

もとは中村座や市村座とならんで江戸三座に数えられた森田座（守田座）のことで、明治5年（1872）

に新富町へ移転しました。「新富座」と称したのは同8年1月からなので、下図の「新富町森田座」は、その数年の間を描いたものであることがわかります。近代の移動手段として普及した人力車に対し、まだ鬘を結っている男性が描かれており、当時の新富座とそこに暮らす人びとの姿をみとることができる資料です。

この錦絵に描かれた劇場はその後火災で焼失しますが、明治11年（1878）6月にはリニューアルオープン。思い切って洋風化された新劇場で、座元・守田勘弥は斬新な芝居の導入など文明開化の気運を積極的に取り入れ演劇の地位向上を図る試みを展開しました。折から人気の9代目市川團十郎、5代目尾上菊五郎、初代市川左團次という“団菊左”が新富座で多くの興行を行い、明治20年（1887）明治天皇の天覧劇の実現までの期間は「新富座時代」とも呼ばれています。

しかし、積極的な興行策の結果、多くの負債を抱えて次第に低落化、この新富座にとってかわる存在として、明治22年（1889）11月21日に歌舞伎座が開業したのです。



「東京開化三十六景 新富町森田座」（請求番号 あ51.20）

【Twitter「昭和20年代の都心部案内図」】

この記事は、2016年7月15日に発信したものです。その1週間後には、当館で企画展示「東京1945-1954 「文化スライド」にみる東京～昭和20年代」が始まるという時期でした。そこで、この展示で扱う時期の東京の様子がわかる資料として、『東京観光と上野動物園』（東京都 1952年〈昭和27〉）所収の「東京都中心部案内図」をご紹介します。

このように、当館が発信するSNS（Facebook／Twitter）の内容は、できる限り時機や季節に応じたものにすべく、担当者が日々腐心しています。

さてこの案内図には、昭和20年代の東京都心部の名所や主要な建物が、特徴をとらえたイラストによって、色鮮やかに描かれています。

この頃はまだ、東京都庁は丸の内にありました。新宿の現都庁のある場所には、当時淀橋浄水場が広がっています。

秋葉原のあたりを見てみると、「ラジオ問屋街」とあります。扱うものは現在と異なりますが、すでに最先端の電気機器を扱う街になっていたことがわかります。移転されて今はない、神田青果市場も描かれています。

両国国技館は、この時期「メモリアルホール」という名称でした。この図では、「大鉄傘」と呼ばれる屋根を冠した、かつての姿を確認することができます。

そのほか、フランク・ロイド・ライトが設計した帝国ホテル本館（1923年〈大正12〉竣工）や、当時国立国会図書館として使用されていた赤坂離宮も描かれています。

もともと跳開橋であった勝鬨橋が開いていて、船が通過しているのも注目されます。

以上のように、ここに描かれる建物や施設の多くは、高度経済成長を経た現在では、大きく姿を変えています。この図からは、かつての都心の懐かしい姿を、この時期の復興状況と合わせて、垣間見ることができるのです。それが美しいイラストと相まって、多くの方の関心を引いたのだと考えます。

かつての東京の案内図を片手に、散策におでかけになるのも面白いかもしれません。



『東京観光と上野動物園』から「東京都中心部案内図」（請求番号 金子文庫-449）

# 利 用 案 内

## ◇ 来館について

当館の利用には予約の必要はありませんが、次のような場合は、事前にご連絡ください。

- ・専門的な調査や、古い資料についてのご相談
- ・大量に資料を利用したい場合
- ・撮影したい場合（要撮影室予約）

## ◇ 利用の注意点

当館1階入口で入館受付を済ませた後、上履きに履き替え、2階閲覧室へお入りください。バッグ等のお荷物は、ロッカー（無料）に入れてください。

※鍵の紛失にご注意ください。

※エレベータはありません。

## ◇ 閲覧方法

当館の資料は、全て閉架式の書庫に保管してあります。閲覧を希望される方は、閲覧室に備付けの目録やパソコン端末で希望の資料を検索し、「閲覧票」に記入し、ご提出ください。

資料によっては原本保護のため、マイクロフィルム又はDVDでの閲覧をお願いしています。

## ◇ 複写について

複写を希望される方は「複写申請票」に記入しご提出ください。電子式複写は、一人（1団体）1日20枚までです。ただし、マイクロフィルム及びDVDからの複写については枚数制限がありません。複写料金は、いずれも1枚20円です。

※できる限り小銭をご用意ください。

## ◇ 利用制限のある資料

以下の資料については利用が制限されます。

- ① 作成又は取得後30年を経過していない公文書
- ② 「東京都公文書館における公文書等の利用に関する取扱規程」第2条第2項又は第3項により一般の利用が制限されている次の公文書等
  - ・個人情報等が記録されているもの
  - ・利用によって破損や汚損を生じるおそれがあるもの
  - ・現在、館において使用しているもの（目録作成など、保存及び利用の開始のため使用しているものを含む。）
  - ・一般の利用に供しないことを条件として寄贈された資料

## 利 用 案 内 ・ 交 通 案 内

### 【利用案内】

- ① 利用時間  
月曜日～金曜日 9時～17時
- ② 各種申請票及び精算の受付時間  
9時～12時、13時～16時30分
- ③ 休館日等
  - ・土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日
  - ・毎月第3水曜日（祝日の場合は翌日）及び年度末最終の平日
  - ・年末年始（12月28日～1月4日）
  - ・臨時の休館日として公示した日
 ※臨時に閲覧を停止する日もありますので、事前に当館HPにてご確認ください。

### ④ 来館についてお願い

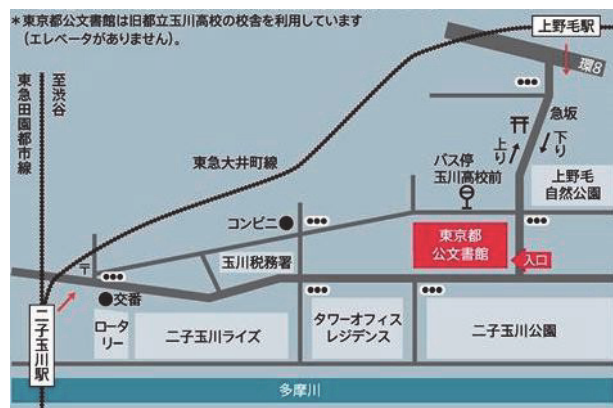
当館は一般の方用の駐車スペースがありませんので、ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。なお、身体障害者の方は事前にご連絡ください。バイク・自転車は、駐輪スペースをご利用ください。

【所在地】 〒158-0094 東京都世田谷区玉川1-20-1

【TEL】 03-3707-2603 【FAX】 03-3707-2500

【ホームページ】 <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/index.htm>

### 【案内図・交通機関】



- ① 東急田園都市線・東急大井町線「二子玉川」駅 東口下車 徒歩約15分
- ② 東急大井町線「上野毛」駅下車 徒歩約10分
- ③ 二子玉川駅・上野毛駅 東急バス「玉川高校前」下車（黒02系統）

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

R70

古紙配合率70%再生紙を使用しています